

かくだんとう ひゃくねん サンふじの核弾頭「百年ふじ」現地検討会開催！

秋も深まった10月20日(月)に、りんご・もも部会生産指導部(部会長畔上慶一氏)主催で、りんご「百年ふじ」の現地検討会が、育成地の荻原安治園で開催された。

百年ふじは、越の荻原安治氏園で、らくらくふじの枝変わりとして発見され、育成された品種である。成熟期は通常のサンふじより早い10月末頃。早期に濃赤色に着色し、蜜入りも早い段階で確認される。最終的に縞が不明瞭な外観(俗に言うベタ縞系)に仕上がる特徴がある。(下写真参照) また、葉摘み等の栽培管理を通常のふじより早く行うことで、10月末までに一定量の収穫・出荷が可能。株式会社山形天香園が百年ふじとして商標登録を行い、平成24年秋から苗木販売を開始した。JA中野市では、平成25年春から百年ふじの2年生苗木養成を開始し、同年秋から部会員向けへ斡旋している。

荻原安治氏は、省力化栽培(らくらく栽培)を実践すべく、平成2年に山形天香園から、らくらくふじ苗木を購入し、園地化を図った。その苗木から育成した樹の中から、通常のらくらくふじより早期に着色が上昇し、蜜入りもやや早い主枝を発見し、これまで育成を行ってきた。26年現在では、原木から穂木を採取し、1世代(原木の子)、2世代(原木の孫)、3世代(原木の曾孫)まで育成して経過をみている。どの樹も外観・成熟具合等はほぼ同じ傾向であり、系統は安定していると見て良い。

ふじには数多くの優良系統が存在し、導入に際しては迷うところだが、地元で育成された品種であるので地域適合性も高く、高品質生産も期待できる。

りんご・もも部会新聞

昨年から、部会を通じて百年ふじ苗木の販売を開始しており、すでに導入をしている生産者も多いが、実際の目で見たことの無い生産者も多く、検討会には大勢の参加があった。検討会では、品種の来歴や栽培上のポイント、原木樹等の見学、試食をお行い、参加者からは数多くの質問が寄せられた。

育成者の荻原安治氏は、「百年ふじはサンふじのなかでもやや早熟系であるので、早めに葉摘みや玉まわしを行うことで、10月末までにまとまった量の収穫を完了できる。また11月以降に収穫になるらくらくふじや長ふー12等へ繋ぐ品種として期待できる。サンふじ間の系統リレーが可能になるのではないかと語った。

部会長の畔上慶一氏は、「昨今秋の温暖化の影響で、ふじの着色上昇が遅く、第1・2プールの集荷が減少している。百年ふじは色上がり早く、果肉成熟もやや早いので、ふじの最も価格が出る時期に出荷で出来る利点がある。導入を前向きに検討して欲しい。」と語った。

温暖化、とりわけ秋の高温により、ふじの着色上昇は10年前と比べても遅くなっている。着色上昇が遅れることで、収穫時期が遅くなり、11月中旬以降の集中収穫・出荷が顕著である。そのような状況下でも中野市の風土に適した早期成熟系の百年ふじは、数多い系統が並ぶサンふじ打線の先陣を飾る核弾頭になるのではないかと感じた。

(記事…指導部長高野広信)

発行

りんご・もも部会

生産指導部

問い合わせ先

営農センター

Tel 23-3933



百年ふじ収穫直前(写真は2世代樹)



外観は縞が不明瞭な仕上がりとなる

～お知らせ～

JA 中野市第3回サンふじコンクール開催

審査日時: 11月21日(金)午前

出品物搬入: 11/10～20

出品資材: 10月末に部会を通じて配布予定

皆様のご出品をお待ちしております!



←写真: 現地検討会

多数の参加者を前に
百年ふじの育成の経
過や栽培上のポイン
ト等を説明する荻原
安治氏(写真中央)